



公益財団法人 日本対がん協会 「日本対がん協会」と「対がん協会」は登録商標です

〒104-0045 東京都中央区築地5-3-3 築地浜離宮ビル7階  
☎ 03-3541-4771 FAX 03-3541-4783 <https://www.jcancer.jp/>

## 主な内容

- 2面 垣添会長  
震災被災者と交流深める旅
- 3面 2023年度  
がん征圧スローガン決まる
- 5面 コラム「ホットラインの現場から」

第4期  
がん対策推進  
基本計画「誰一人取り残さないがん対策を推進し、  
全ての国民とがんの克服を目指す。」

## がん検診受診率の目標は60%へ引き上げ 患者・市民参画の推進などを追加

「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す。」——国のがん対策の新たな指針となる第4期がん対策推進基本計画が3月28日、閣議決定された。第3期の基本計画で掲げた「がん予防」「がん医療」「がんとの共生」の三つの柱と「これらを支える基盤」の計4分野で課題や目標を見直し、2028年度まで取り組む。

第4期の基本計画は、がん患者を含むすべての国民ががんに関する正しい知識をもち、避けられるがんの予防や、時間や場所によらず様々ながん種に対応した医療・支援を受けられるといったがん対策を進め、がんを克服することを全体目標として掲げた。がん検診受診率の目標を50%から60%へ引き上げ、患者・市民参画の推進やデジタル化の推進を新たに追加するなど、がん対策を更に推進する。

分野別の目標では、がん予防は、がんを知り、がん予防、がん検診を促すことでがん罹患率・がん死亡率の減少をめざす。がん予防の普及啓発、自治体や学会などと連携した取り組みを進める。科学的根拠に基づいた施策によってがん罹患率を減少させる。また、全ての国民が受診しやすい検診体制を作り、がんの早期発見・早期治療を促して効率的で持続可能ながん対策を進め、がん死亡率を減少させる。

がん医療では、適切な医療を受けられる体制を充実させ、がん生存率の向上とがん死亡率の減少、がん患者・家族らの療養生活の質の向上をめざす。がんゲノム医療など高度ながん医療の提供、患者本位のがん医療を行い、がん医療の質を高める。がんの特性に応じたがん医療の均てん化・集約化も進め、生存率の向上、がん死亡率の減少をめざす。また、支持療法や緩和ケアが適切に提供される体制も整備し、全てのがん患者・家族らの療養生活の質を向上させる。

取り組むべき項目として「小児がん・AYA世代のがん対策」「高齢者のがん対策」を分けたほか、「がんと診断された時からの緩和ケアの推進」を「がんとの共生」から移した。

がんとの共生では、がんになっても安心して生活し、尊厳をもって生きることのできる地域共生社会を実現させ、がん患者・家族らの療養生活の質の向上をめざす。国や自治体、医療従事者、医療保険者、事業主、学会、患者団体、職能団体などの関係団体、マスメディアが関連分野と連携し、効率的にサービス・支援を行える仕組みを作り、社会課題の解決を図ることで、がん患者・家族が安心して生活できる地域共生社会の実現に取り組む。

3つの柱を支える基盤の分野では、取り組むべき項目として「患者・市民参画の推進」「デジタル化の推進」が新たに加えられた。がん検診の精度管理などでデータの利活用を促すため、「がん登録の利活用」も、この分野に位置づけられた。

第4期基本計画の策定過程で、日本対がん協会は昨年10月、一般社団法人「がんと働く応援団」と協力し、「がん就労」に関するWEBアンケートを実施。約700人から寄せられた声をまとめ、厚生労働省のがん対策推進協議会へ提出した。また、2月には計画案に対するパブリックコメントを厚生労働省へ提出した。

第4期基本計画の策定過程で、日本対がん協会は昨年10月、一般社団法人「がんと働く応援団」と協力し、「がん就労」に関するWEBアンケートを実施。約700人から寄せられた声をまとめ、厚生労働省のがん対策推進協議会へ提出した。また、2月には計画案に対するパブリックコメントを厚生労働省へ提出した。

第4期基本計画の策定過程で、日本対がん協会は昨年10月、一般社団法人「がんと働く応援団」と協力し、「がん就労」に関するWEBアンケートを実施。約700人から寄せられた声をまとめ、厚生労働省のがん対策推進協議会へ提出した。また、2月には計画案に対するパブリックコメントを厚生労働省へ提出した。

## 第4期がん対策推進基本計画(令和5年3月28日閣議決定)概要

## 第1. 全体目標と分野別目標 / 第2. 分野別施策と個別目標

## 全体目標: 「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す。」

「がん予防」分野の分野別目標  
がんを知り、がんを予防すること、がん検診による早期発見・早期治療を促すことで、がん罹患率・がん死亡率の減少を目指す

「がん医療」分野の分野別目標  
適切な医療を受けられる体制を充実させることで、がん生存率の向上・がん死亡率の減少、全てのがん患者及びその家族等の療養生活の質の向上を目指す

「がんとの共生」分野の分野別目標  
がんになっても安心して生活し、尊厳を持って生きることのできる地域共生社会を実現することで、全てのがん患者及びその家族等の療養生活の質の向上を目指す

## 1. がん予防

- がんの1次予防  
①生活習慣について  
②感染症対策について
- がんの2次予防(がん検診)  
①受診率向上対策について  
②がん検診の精度管理等について  
③科学的根拠に基づくがん検診の実施について

## 2. がん医療

- がん医療提供体制等  
①医療提供体制の均てん化・集約化について  
②がんゲノム医療について  
③手術療法・放射線療法・薬物療法について  
④チーム医療の推進について  
⑤がんのリハビリテーションについて  
⑥がんと診断された時からの緩和ケアの推進について  
⑦妊産婦温存療法について
- 希少がん及び難治性がん対策
- 小児がん及びAYA世代のがん対策
- 高齢者のがん対策
- 新規医薬品、医療機器及び医療技術の速やかな医療実装

## 3. がんとの共生

- 相談支援及び情報提供  
①相談支援について  
②情報提供について
- 社会連携に基づく緩和ケア等のがん対策・患者支援  
(サバイバースhip支援)
- がん患者等の社会的な問題への対策  
①就労支援について  
②アピアランスケアについて  
③がん診断後の自給対策について  
④その他の社会的な問題について
- ライフステージに応じた療養環境への支援  
①小児・AYA世代について  
②高齢者について

## 4. これを支える基盤

- 全ゲノム解析等の新たな技術を含む更なるがん研究の推進
- 人材育成の強化
- がん教育及びがんに関する知識の普及啓発
- がん登録の利活用の推進
- 患者・市民参画の推進
- デジタル化の推進

## 第3. がん対策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項

- 関係者等の連携協力の更なる強化
- 感染症発生・まん延時や災害時等を見据えた対策
- 都道府県による計画の策定
- 国民の努力
- 必要な財政措置の実施と予算の効率化・重点化
- 目標の達成状況の把握
- 基本計画の見直し

青森・八戸～福島・相馬

約1000kmウォーク

日本対がん協会 垣添会長

## 被災地のがん患者との交流深める旅へ出発

## みちのく潮風トレイル 主な日程

|       |                                                |         |     |   |       |
|-------|------------------------------------------------|---------|-----|---|-------|
| 第 1 回 | 3 月11日                                         | 福島県相馬市  | 追悼式 |   | 423km |
|       | 3 月27日                                         | 青森県八戸市  | 出   | 発 |       |
|       | 4 月 9日                                         | 岩手県釜石市  | 到   | 着 |       |
| 第 2 回 | 4 月24日                                         | 岩手県釜石市  | 出   | 発 | 479km |
|       | 5 月 7日                                         | 宮城県東松島市 | 到   | 着 |       |
| 第 3 回 | 5 月15日                                         | 宮城県塩竈市  | 出   | 発 | 126km |
|       | 5 月20日                                         | 福島県相馬市  | 到   | 着 |       |
| 第 4 回 | 6 月19～23日 宮城県石巻市～塩竈市<br>網地島、田代島、寒風沢島、野々島、桂島めぐり |         |     |   |       |



RFLJ八戸のメンバーと出発前の記念撮影をする垣添会長(右)



太平洋に臨む種差海岸を歩く垣添会長



福島県相馬市の追悼式に参列した垣添会長

公益財団法人日本対がん協会の垣添忠生会長は、東日本大震災から12年となる今年、東北地方の太平洋岸の自然歩道「みちのく潮風トレイル」をたどりながら、被災地のがんサバイバーや支援者、医療従事者らを励まし、交流を深める旅を始めた。早春の青森・八戸をスタートし、初夏に福島・相馬でのゴールをめざす。

みちのく潮風トレイルは、青森県八戸市蕪島(かぶしま)から福島県相馬市松川浦まで総延長1,000kmを超える自然歩道。環境省が整備し、2019年に全線が開通した。垣添会長は2023年3月27日から6月23日までの間、4回に分けて北から南へ歩く。

垣添会長のウォーキングによるがんサバイバー支援の活動は、2018年に実施した「全国縦断がんサバイバー支援ウォーク」以来。当時は九州から北海道まで、一部区間では交通機関も利用しながら約3,500kmを延べ90日間かけて移動した。この間、全国がんセンター協議会加盟の32病院を訪ね、がんサバイバーと語り合うなどした。

みちのく潮風トレイルをたどる旅の第1回は3月27日に出発した。この日は青森県八戸市のJR鮫駅から種差海岸まで約11kmを歩いた。全行程の

初日でもあり、協会の梅田正行理事長、岡本宏之事務局長、リレー・フォー・ライフ・ジャパン八戸実行委員会のメンバーらが同行した。第1回の行程は、三陸海岸を南下し、岩手県釜石市までの423kmあまり。垣添会長は、一部区間では交通機関などを利用するが、体調や天候が許す限り1日あたり20km前後を歩く予定。

垣添会長は「がんサバイバーを支援しよう」「3/11を忘れない」という二つのロゴの幟を掲げ、緑色のジャンパーに赤色で「3/11を忘れない」とのピンバッジを付けて被災地、がん患者の支援をアピールする。全行程を映画監督の野澤和之氏が同行取材し、ドキュメンタリー映画『Dr.カキゾエ 歩く処方箋(仮題)』の制作も予定される。

出発に先立ち、垣添会長は東日本大震災12周年となる3月11日、福島県相馬市の市民会館で営まれた追悼式に参列し、多くの犠牲者の冥福を祈った。妻をがんで亡くし、がんサバイバーでもある垣添会長は、思いもよらず

がんに罹患した人と、突然の大地震で被災した人は基本的に同じだと考え、旅の途中では、被災者や僧侶、再建した食堂の方たちも訪ねる。宮城県立がんセンター(名取市)では被災し、かつ、がんに罹った人に会うなど、この旅を通してさまざまな人たちとの交流を深める。垣添会長は「サバイバー支援と3.11を忘れないという思いで各地のいろんな方々と交流したい」と話している。日々の状況は、垣添会長のインスタグラム(<https://www.instagram.com/t.kakizoe/>)で報告する。



2023年度  
がん征圧  
スローガン

山梨県支部 村田智子さんの作品に決定  
「安心を 明日につなぐ がん検診」

公益財団法人日本対がん協会の2023年度がん征圧スローガンが「安心を明日につなぐ がん検診」(山梨県支部・村田智子さんの作品)に決まった。この4月から1年間、日本対がん協会が発行するポスターやリーフレットなどに掲載してがん検診受診を呼びかけるほか、希望する自治体や企業などの啓発資材にも使われる。

スローガンは毎年、全国のグループ支部職員から募り、日本対がん協会内

の選考委員会が決めている。2023年度のスローガン候補は40支部から178作品が寄せられた。

新型コロナウイルス感染症の流行が長引く中、がん検診の受診者数は2020年に大きく落ち込んだものの、2021年以降の受診者数は回復しつつある。村田さんの作品は「安心」「明日」という言葉をがん検診にかけ、希望や明るさを感じさせるとして最優秀賞に選ばれた。がん征圧月間の9月、山口市で開

かれる「がん征圧全国大会 山口大会」で表彰される。

優秀賞には、小林あつみさん(北海道)、小柳英治さん(新潟)、前悠佳璃さん(熊本)の計3作品が選ばれた。

スローガン使用に関する問い合わせは、日本対がん協会の広報担当(電話03-3541-4771、メール:jcskouhou@jcancer.jp)へ。(日本対がん協会広報グループ・渡辺奈保子)

最優秀賞

「安心を 明日につなぐ がん検診」

公益財団法人山梨県健康管理事業団  
業務部健康支援室

村田 智子さん

日頃、受診者の方から、「今年も無事に検診が終わって安心した」「検診でがんが発見されてショックを受けたけれど、早期だったのでほっとした」などのお言葉をいただきます。スローガンには、がん検診が現在と近い未来の安心につながって欲しいという想いを込めました。検診機関では安全で精度の高い検診の実施を目指し、日々努力しています。ご自身や大切な方の安心につなげるために、定期的ながん検診の受診をお勧めいたします。



優秀賞

「がん検診 未来のわたしへ 健康投資」

公益財団法人北海道対がん協会 旭川がん検診センター総務・施設課 小林 あつみさん

初めて受診される方や受診をためらう方へのアピールになるスローガンにしたいと考え、将来のために健康を積み立てるイメージで『投資』と言う言葉を選びました。健康に対する意識がより高まるといいと思いました。検診を受けるのは面倒だし不安なこともあるかと思いますが、自分への投資という前向きなイメージを持っていただけると嬉しいです。

優秀賞

「がん検診 持続可能な 健康チェック」

公益財団法人新潟県健康づくり財団 事業推進課

小柳 英治さん

未曾有のコロナ下においても、各支部ではさまざまな対策や工夫を凝らして、がん検診を実施してきました。今後も社会情勢の変化に柔軟に対応し、受診しやすい検診体制を提供することで、がん検診が持続可能な健康チェックのツールとして貢献できたらと思います。健康を守るためのがん検診を是非、積極的に受診していただきたいと思います。

優秀賞

「あのときの がん検診で 今がある」

公益財団法人熊本県総合保健センター 情報管理室

前 悠佳璃さん

一人でも多くの方が、がんを早期に発見して健康でいきいきとした社会生活を長く送れるようにという思いを込めたスローガンです。保健師として検診後の精密検査追跡業務を行うなかで、精検未受診の理由として自覚症状がないことや多忙の回答を多く目にします。自己判断で放置せず、がん検診の目的を果たすためにも必ず精密検査を受診してください。

# 9価HPVワクチン定期接種 15歳未満は2回接種も可能に

## 2023年4月から 実施

### 厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会が了承

子宮頸がんの原因となるHPV(ヒトパピローマウイルス)感染を防ぐワクチンの定期接種で、厚生労働省の厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会は、4月から導入された9価ワクチン(シルガード9)について、15歳未満の接種対象者の場合、2回で終える接種スケジュールを了承した。2価ワクチン(サーバリックス)と4価ワクチン(ガーダシル)はこれまで通り3回接種する。また、9価でも初回から2回目までの間隔が十分確保できない場合や接種対象者が15歳以上の場合は3回接種する。

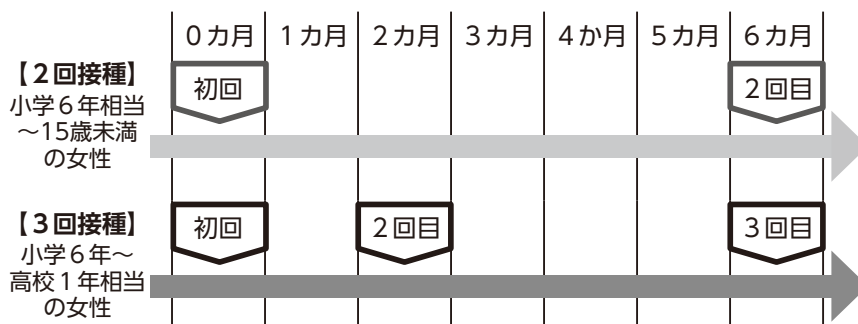
HPVワクチンの定期接種は小学6年生から高校1年生に相当する年代の女性を対象に実施されており、接種回数は2価、4価ともに3回となっている。また、2022年度まで定期接種の対象外で、今年4月から定期接種に導入された9価も3回となっていた。

一方、海外諸国では9価を中心に若年層は2回接種が主流となっている。日本でも9価の定期接種導入が決まった昨年秋以降、9価の接種回数の見直しが検討されてきた。薬事・食品衛生審議会は2月、9価の2回接種の販売製造承認について了承。分科会に先立ち、基本方針部会でも3月1日、9価の2回接種による定期接種が了承された。

3月7日の分科会は、基本方針部会の議論を踏まえ、①9価の標準的な接種スケジュールを、初回接種の6か月後の2回接種とすること、②初回からの接種間隔は最低5か月以上とし、5か月未満で2回目を接種した場合は3回目を接種すること、③2価、4価との交互接種になる場合は3回接種とす

ること、④15歳になるまでに初回接種を行えば、15歳になっても2回接種で完了すること——などが了承された。

#### 9価HPVワクチンの接種回数と間隔



#### 2回接種の定期接種化に関する基本方針部会の議論のまとめ

##### 【1】2回接種の接種方法について

- 標準的な接種スケジュールを初回接種の6か月後の2回接種とする。
- 初回からの2回目までの接種間隔は最低5か月以上とし、5か月未満で2回目を接種した場合は合計3回の接種とする。
- 接種間隔の上限は特段設定しない。
- 2価及び4価HPVワクチンとの交互接種となる場合は3回接種とする。

##### 【2】2回接種の対象年齢について

- 小学校6年生の学年から、15歳の誕生日の前日(15歳未満)までとする。
- 15歳になるまでの間に1回目の接種を行えば、2回での接種完了を可能とする。

※厚生労働省資料より作成

#### 海外における9価HPVワクチンの標準的な接種スケジュール

| 国名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 推奨される接種方法(※)                                 | 2回接種の考え方                                                                             |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 米国<br><a href="https://www.cdc.gov/hpv/hcp/schedule-recommendations.html">https://www.cdc.gov/hpv/hcp/schedule-recommendations.html</a>                                                                                                                                                                                                                                                                  | 11-12歳の男女に対して、6-12か月の間隔で2回接種                 | ・15歳の誕生日までに1回目の接種を完了させれば2回での接種完了が可能<br>・2回目までの間隔は最短5か月で、それより短い間隔の場合には3回接種が必要         |
| 英国<br><a href="https://www.nhs.uk/conditions/vaccinations/hpv-human-papillomavirus-vaccine/">https://www.nhs.uk/conditions/vaccinations/hpv-human-papillomavirus-vaccine/</a><br><a href="https://www.gov.uk/government/publications/hpv-immunisation-programme-changes-from-april-2022-letter">https://www.gov.uk/government/publications/hpv-immunisation-programme-changes-from-april-2022-letter</a> | 12-13歳の男女に対して、6-24か月の間隔で2回接種                 | ・2回目までは6-24か月の間隔を空ける<br>・2022年4月から、15歳以上25歳未満も2回接種が可能(それ以前に6か月空けて2回目を完了していれば、3回目は不要) |
| カナダ<br><a href="https://www.canada.ca/en/public-health/services/publications/healthy-living/canadian-immunisation-guide-part-4-active-vaccines/page-04-human-papillomavirus-vaccine.html#5">https://www.canada.ca/en/public-health/services/publications/healthy-living/canadian-immunisation-guide-part-4-active-vaccines/page-04-human-papillomavirus-vaccine.html#5</a>                               | 9-14歳の男女に対して、2回(0, 6か月)または3回(0, 2, 6か月)      | ・15歳の誕生日までに1回目の接種を完了させれば2回での接種完了が可能<br>・2回目までの最短の間隔は24週(6か月)                         |
| オーストラリア<br><a href="https://www.health.gov.au/health-topics/immunisation/immunisation-services/human-papillomavirus-hpv-immunisation-service">https://www.health.gov.au/health-topics/immunisation/immunisation-services/human-papillomavirus-hpv-immunisation-service</a>                                                                                                                               | 12-13歳(school program)の男女に対して、6-12か月の間隔で2回接種 | ・15歳の誕生日までに1回目の接種を完了させれば2回での接種完了が可能<br>・2回目までの間隔は5-13か月で、それより短い間隔の場合には3回接種が必要        |
| ニュージーランド<br><a href="https://www.health.govt.nz/system/files/documents/publications/imm-union-handbook-2020-sep-20-v17b.pdf">https://www.health.govt.nz/system/files/documents/publications/imm-union-handbook-2020-sep-20-v17b.pdf</a>                                                                                                                                                                  | 11-12歳(school program)の男女に対して、6-12か月の間隔で2回接種 | ・15歳の誕生日までに1回目の接種を完了させれば2回での接種完了が可能<br>・2回目までの最短の間隔は6か月、それより短い場合には3回接種が必要            |

(※)主に推奨されている接種方法を記載。国によっては、年齢や免疫の状態によって、記載以外の対象者・接種方法もNPIに含めているケースもある。

14

第45回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会の資料より

## 古本で日本対がん協会に寄付ができます

読み終えた本やDVDなどを活用しませんか？

詳しくは「チャリボン」 <https://www.charibon.jp/partner/jcs/>  
(ISDNのバーコードがついた書籍類が対象です)

charibon by VALIE BOOKS

お問合せ(株式会社バリューブックス): 0120-826-295  
受付時間: 10:00-21:00(月~土) 10:00-17:00(日)



**がん相談ホットラインの  
現場から****HPVワクチン接種について**

ある日の相談で、開口一番「どうしてワクチンを打たないんですか!!」と叫びにも近い声で電話をかけてこられた女性のことが忘れられません。

その女性は、子宮頸がんになった方でした。

結婚して当たり前のように子供を持てると思っていたそうです。でも、不正出血があって婦人科を受診したところ、子宮頸がんと診断されました。それだけでもショックなことですが、病状が進んでいたため子宮を切除する必要があると言われたのです。

子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルス(HPV)の感染を防ぐ効果が期待できる「HPVワクチン」は、初めて性交渉を経験する前の接種が最も効果が高いとされています。現在、小学6年～高校1年相当の女子を対象に定期接種が行われています。でも、この女性が対象年齢の頃、まだ定期接種が行われていませんでした。

もし受けられていたら子宮頸がんになっていなかったかもしれない……。今頃は子供を抱っこしていたかもしれない……。

そう思うと、悔しさ、やりきれなさ、どうして自分がという憤り、自分がいけなかったと自分を責めてしまう苦しさ等、様々な感情が押し寄せてとても苦しんでいました。

同時に、自分のような思いをしてもいいの？ 守れる未来や命があるんだよ……と。

こうした思いが前述の一言につながったのです。

国は2013年にHPVワクチンの公費による定期接種を始めました。対象年齢の女子は無料で接種できますが、接種後に多様な症状が報告されたため、接種を積極的に勧めることは控えられました。その後、「安全性について特

段の懸念が認められないことが確認され、接種による有効性が副反応のリスクを明らかに上回ると認められました」(厚生労働省ホームページHPVワクチンに関するQ&Aより抜粋)として、昨年4月、約9年ぶりに積極的勧奨が再開されました。

積極的勧奨が控えられた間、ワクチンを接種する人は激減し、子宮頸がんになる方が増えないことを祈る日々でした。

厚生労働省は引き続き安全性の評価、接種後に生じた症状の診療実態の把握や体制強化をしていくことにも言及しています。

でも、いざワクチンを受けるとなると、痛い？ 身体への影響は？ 等、様々な不安が出てくることでしょう。ホットラインにもそうした相談が寄せられています。

たしかに、どんなワクチンにもまったくリスクがないものはありません。怖いと感じたり、不安になったりするのは当然です。だからといって、リスクだけをみて受けないと決めてしまっているのでしょうか。

私たちは新型コロナのワクチン接種についてよく考えたはずですが、効果はあるの？ 安全性やリスクは？ もし何か起きた時はどのように対処されるの？ 相談できる所はある？ HPVワクチンも見えていくポイントは同じです。まずは正しい情報を知ることから始めましょう。

4月からは2価、4価ワクチンに加

え、9価ワクチンも接種できるようになりました。「価」の前の数字は、簡単に言うとカバーできる型の数を表しています。ほかに何か違いはあるの？ 安全性は大丈夫？ という疑問や不安があるかもしれません。

そんな時は、厚生労働省の予防接種に関する相談窓口やお住まいの都道府県に設置された相談窓口、かかりつけ医などに相談することもできます。

定期接種の対象年齢は若いですが、保護者だけで判断せず、本人と一緒に、受けた場合と受けなかった場合では、どんなメリットやデメリットがあるのか書き出してみるなど冷静に考えましょう。よく話し合い、できる限り納得することが大切です。

思い描く夢や将来を想像しながら、今ある命をどう未来につなげていくのか考えていただけたらと思います。

子宮頸がんでは苦しんだり悲しんだりしないためには、HPVワクチン接種と子宮頸がん検診の受診が大切です。HPVワクチンを接種しても、しなくても、20歳になったら2年に1回の検診は必ず受けましょう。もしも、のときの早期発見につながります。



日本対がん協会が運営する無料電話相談「がん相談ホットライン」には、がん患者さんやその家族の方などから多くの相談が寄せられています。実際に受けた相談の中から相談員一人ひとりが受け止めた思いをつづります。随時掲載です。がんサバイバー・クラブのサイトでもお読みいただけます。

**【HPVワクチンに関する情報】(厚生労働省のホームページ)**

- ヒトパピローマウイルス感染症～子宮頸がん(子宮けいがん)とHPVワクチン～  
一般の方向け基本情報  
<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou28/index.html>
- ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチンの接種を逃した方へ  
～キャッチアップ接種のご案内～  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/hpv\\_catch-up-vaccination.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/hpv_catch-up-vaccination.html)

## 都内2校でがん教育授業

## がんサバイバーが命の大切さ伝える

世田谷区立尾山台中学校／東京都立千歳丘高校

日本対がん協会は3月、東京都世田谷区の区立中学校、都立高校の2校で行われたがん教育授業に協力し、がんサバイバー・クラブのスタッフ、堀均さん(71)を外部講師として派遣し、がんの基礎知識とともにがん検診の重要性、闘病体験談を通して命の大切さを伝えた。

## 世田谷区立尾山台中学校

尾山台中学校では3月3日、2年生約100人を対象に体育館で授業がおこなわれた。

堀さんは、生徒たちにクイズを出題しながら、日本人の一生の中で2人に1人はがんになること、1年間で約100万人が新たにがんになり、品川区の人口に相当する約38万人が毎年がんで亡くなっている状況を説明。がんは体の細胞が増える過程で発症するため誰にでも起こり得ることだが、早期発見と適切な治療で治せることを伝えた。また、禁煙やバランスのいい食事、適度な運動などがリスクを下げる、がん検診で早期がんを見つけられることも説明した。

堀さんは2000年、48歳のときに肺がんを告知され、放射線治療や外科手術を受けた。その後の2006年、がん患者やその家族を支援し、がん征圧をめざすチャリティ活動「リレー・フォー・ライフ」に参加した。集められた寄付金は、若手医師の育成や新薬開発の助成など未来の子どもたちへの活動でもあると話し、最後に「がんになるのは誰のせいでもない。いまを生きる命を大切にしてほしい」と生徒たちへ呼びかけた。

講師へお礼を述べた

生徒は「がんに対する考え方が変わりました。がんになるのは仕方ないこと。身近な人ががんになったら優しく接したいと思います」と話した。



がんが発生する仕組みを説明する堀さん＝世田谷区立尾山台中

## 東京都立千歳丘高校

千歳丘高校では3月16日、2年生約200人を対象にがん教育授業がおこなわれた。堀さんは授業の冒頭、「がんのことを知り、家族ががんになったらどうしたらいいのかなど、自分自身の心構えをもってもらいたい」と話し、がんをめぐる日本の状況や、がんが発生する仕組みについて説明した。そのうえで、がんの治療は早期発見がカギであり、そのためにはがん検診を受けることが大切だと指摘した。

また、がんになるリスクを下げる生活習慣として、たばこを吸わない▽他人のたばこの煙を避ける▽バランスの

とれた食生活を▽塩辛い食品は控えめに…などの「がんを防ぐための新12か条」を紹介した。

闘病経験談では、肺がんの治療中、家族に経済的な心配をかけ、休職で勤務先に迷惑をかけたことを振り返り、「がんになっても、なくても暮らしやすい社会を作っていきましょう」と話した。

授業後、お礼を述べた生徒は、肺がんになった家族が最近、入院先から自宅へ戻ってき

たことに触れながら「これからも長生きしてほしい。自分でもサポートできればいいと思います」と話した。



がん細胞について説明する堀さん＝東京都立千歳丘高校

# がん相談ホットライン 03-3541-7830

毎日受け付けています

時間は当分の間、10:00～13:00 15:00～18:00

社会保険労務士による「がんと就労」電話相談の予約はインターネットの専用フォームで受け付けます。がん専門医による相談は今年度休止します



社労士による電話相談

態勢縮小のため  
電話がつながりにくい  
ことがあります。  
何卒ご了承ください



# 東京マラソン、Reライフフェスティバルで 啓発活動

日本対がん協会

公益財団法人日本対がん協会は3月、東京都内で開催された「東京マラソン2023」「Reライフフェスティバル2023春」にブースを出展し、多くの参加者に協会の活動を紹介するとともに、がん検診の受診、寄付による支援などを呼びかけた。

4年ぶりにコロナ禍前と同じ規模で開催された3月5日の「東京マラソン



チャリティランナー(中央)も参加した  
©東京マラソン財団



完走を果たし、記念撮影するチャリティランナー



2023」で、日本対がん協会は寄付先団体の一つに選定され、がん経験者を含む多くのチャリティランナーに参加してもらった。大会当日はゴールに近い東京国際フォーラム(千代田区)のチャリティラウンジで出場したランナーをねぎらい、完走者の記念撮影や、寄付金で支えられている活動の紹介をした。大会直前の3月2～4日は、ランナー受付会場の東京ビッグサイト(江東区)で催された「東京マラソンEXPO 2023」に参加し、がん相談ホットラインなどによるがん患者・家族の支援事業、遺贈寄付による社会貢献事業などを紹介した。

「Reライフフェスティバル2023春」(朝日新聞社主催)は3月10日、4年ぶりにリアル開催され、会場となった東京都中央区のホテルは多くの来場者でにぎわった。日本対がん協会のブースでは乳がん検診や子宮頸がん検診の受診、ほほえみ基金への寄付などを呼びかけた。また、朝

日新聞朝刊日曜版のReライフ面でコラム「今すぐできる終活講座」を連載していた遺贈寄附推進機構株式会社代表取締役の齋藤弘道氏が遺贈に関する相談を受け付けた。22日には、日本対がん協会終活セミナー「人生を豊かにするエンディングノートの書き方」をオンラインとのハイブリッドで開催。Reライフフェスティバルの会場で配布されたエンディングノートを使い、齋藤氏が書き方についてアドバイスした。



Reライフフェスティバルで遺贈に関する相談を受ける齋藤氏

4月26日  
開催

## 「片付け、生前整理で社会貢献」テーマに オンライン終活セミナー

日本対がん協会

日本対がん協会は4月26日(水)午後2時から、オンライン終活セミナー「片付け、生前整理で社会貢献」を開きます。「終活」と聞くと「片付け」「生前整理」をイメージする人は多いようです。片付けのポイントや注意事項を、プロの講師が伝授します。日本対がん協会の活動案内、遺贈寄付の事例紹介もあります。



三井恒雄氏

講師は、物品寄付型ファンドレイジングプログラム「お宝エイド」を主宰する三井恒雄氏です。「スッキリする家に眠る『お宝』の手放し方」と題し、終活や生前整理での片付け全

般について話します。2014年に立ち上げた「お宝エイド」は、不要な物を買って取ってもらい自分のためのお金に換えるのではなく、社会貢献の手段として、自分が応援したいNPOなど非営利組織の寄付先団体に換金額を寄付する活動に取り組んでいます。



齋藤弘道氏

また、遺贈寄附推進機構株式会社代表取締役で、全国レガシーギフト協会理事の齋藤弘道氏が「遺りものには福があります」と題して講演します。信託銀行勤務の経験などから2018年に遺贈寄附推進機構株式会社を設立し、日本初の「遺言代用信託に

よる寄付」を金融機関と共同開発しました。片付けや生前整理をしても最後に残ってしまう財産を社会に「恩送り」する方法として、人生最後の社会貢献「遺贈寄付」について事例を交えて解説します。

定員500人。無料。申し込みは、Webフォーム(<https://ws.formzu.net/dist/S41822905/>)か、住所・氏名・年齢・電話番号を明記してメール(kifu@jcancer.jp)で。申し込みシートがあればファクス(03・3541・4783)でも受け付けます。締め切りは4月25日(火)午後1時。事前にZoom招待URLをお送りします。問い合わせは、日本対がん協会セミナー事務局(03・3541・4771)へ。

2023  
年度

# 「日本対がん協会賞」「朝日がん大賞」候補を募集 6月16日締め切り

公益財団法人日本対がん協会は、2023年度の「日本対がん協会賞」「朝日がん大賞」の候補(個人・団体)を募集します。多くの方の推薦をお待ちしています。有識者による選考委員会が受賞者を決定し、「がん征圧月間」となる9月、山口市で開催する「がん征圧全国大会 山口大会」で表彰式を行います。

日本対がん協会賞は、協会設立10周年となった1968(昭和43)年度に創設されました。がん検診の指導やシステム開発、第一線で検診・診断活動、がん予防知識の普及・啓発などで長年にわたり地道な努力を重ねた個人と団体が対象で、各数件を選出します。

朝日がん大賞は、日本対がん協会賞の特別賞として2001(平成13)年度に

朝日新聞社の協力を得て創設されました。「がん予防」を中心に、がん医療・がん研究、画期的な医療機器の開発、がん患者・サバイバーの支援など幅広い分野が対象です。活動期間は問わず、第一線で活躍している個人または団体の中から1件を選出します。

受賞者・団体は9月1日付で発表します。日本対がん協会賞は正賞(レリーフ)と副賞(記念品)、朝日がん大賞は正賞(レリーフ)と副賞(100万円)が贈られます。

応募は、所定の推薦用紙に必要事項を記入し、下記へ郵送して下さい。資料がある場合は同封し、論文は代表的なもの(主著論文)5本までとして下さい。

詳細は、日本対がん協会ホームページの「募集要項」(<https://www.jcancer.jp/recruit/14019>)をご覧下さい。推薦用紙のダウンロードもできます。問い合わせは、日本対がん協会内の事務局(電話：03-3541-4771、メール：jcskouhou@jcancer.jp)へ。

【応募先】 〒104-0045

東京都中央区築地5-3-3 築地浜離宮ビル7階  
(公財)日本対がん協会「日本対がん協会賞」係宛

【締め切り】 6月16日(金)必着厳守

第2回 がんリテセミナー

4月19日にオンライン開催

## 「ダイバーシティ&インクルージョン」 がん治療と就労を考える



本多由紀氏



高木健二郎氏

日本対がん協会は、企業とそこで働く人たちががんに関する正しい情報を集め、理解・活用する能力の向上を支援する「働く世代のためのがんリテラシー向上プロジェクト」の一環として4月19日(水)午後2時から、第2回がんリテセミナーをオンラインで開催

します。多様な人材を組織に受け入れてその能力を活用しようという考え方「ダイバーシティ&インクルージョン」(多様性と包摂性)の視点からがん治療と就労の問題を考えます。

講師は、株式会社資生堂の本多由紀ダイバーシティ&インクルージョン戦略推進部長と一般社団法人食道がんサバイバーズシェアリングスの高木健二

郎代表理事です。

本多氏は資生堂が取り組むダイバーシティ&インクルージョンの全体戦略策定、女性活躍施策などに携わり、2022年からは当協会理事も務めています。

高木氏は食道がん経験者です。2020年、食道がん患者の支援団体を広告会社勤務と両立しながら設立しました。日本食道学会広報委員も務めています。

「働く世代のためのがんリテラシー向上プロジェクト」特設サイト  
<https://www.jcancer.jp/hataraku/seminar/>

### 「がんリテラシー診断」割引キャンペーン

がんに関する知識を問うテストに企業(職場)単位で取り組み、がんリテラシーの向上をめざす「がんリテラシー診断」(主催：日本対がん協会)を実施運営している株式会社オデッセイコミュニケーションズは、4月19日～9月30日の期間限定で「がんリテラシー診断リリース記念特別価格キャンペーン」を

実施する。通常1人あたり2200円(税込み)の受講料を1100円(同)に割り引く。最少受講人数20人から10人単位で受け付ける。詳細はオデッセイコミュニケーションズの「がんリテラシー診断」サイト(<https://client.odyssey-com.co.jp/jcancer-hataraku/>)へ。